

遊びをとおして、 まちが元気になる あそ部

「あそ部」

あそびの職人講座



宇和島市社会福祉協議会では、地域に暮らす人々が、福祉への関心・理解を深めるきっかけを作ろうと、学校や企業等様々な場所へ出向き、福祉学習を行ってきた。こども達にとっても、実際に障がいを持つ人達との交流は、いわゆる体験学習より新鮮だが、もっと時間をかけて互いに理解を深めたいと感じていた。

平成18年度、愛媛県社会福祉協議会から、地域住民主体のつながりと支え合い活動を支援助成する「地域活動交流・活性化事業」のモデル助成を受けて「もっと交流☆ずっと一緒にフレンズ」を開催



もっと交流☆ずっと一緒にフレンズ

ふれあい、互いを知る場となった。

地域で見かけるこども達は、まるで時間つぶしをするかのよう遊び、それはワクワクドキドキといった感動や感激とは無縁のものだった。そんなこども

した。夏休み中に、こども達と、福祉学習で講師役を務めてくれた障がい者や高齢者が継続的に交流を深めるもので、延べ281名の小学生が参加した。日常あまり出会うことのない人と、ギターや太鼓を演奏する等、共に生きる仲間として理屈抜きに



社会福祉法人
宇和島市社会福祉協議会
地域福祉係
奥野 佳代
(宇和島市)



あそ部(思いっきり遊ぶ)

以前の事業で出会った宇和島おやこ劇場Kさんの力を借り、こどもに関わるおとなの養成講座「あそびの職人講座」も開催してきた。あそ部を実施するうちに、こどもに指導するおとなではなく、一緒に考え寄り添うおとなが必要だと感じていた。そんなとき、「NPO松山冒険遊び場みんなだいすき」のYさんに出会った。地域の公園で、自分の責任のとも思いっきり遊ぶ。おとなは、遊び方を決めず、場所の提供とこどものサポートだけ。こどもの責任で自由に遊ぶにはどんな準備が必要なのか。探る意味でも一緒に「こどもの遊び場」をやってみようと、南予青年の家でYさんの協力のもと実施した。

遊び方をおとなが決めていないか

達に、家族や学校以外のおとなと夢中に遊ぶ機会を作れたら…。そうして「あそ部」が生まれた。不定期ではあるが、放課後や休日におとなの知識や経験を活かし、折り紙・裁縫、お化け屋敷などをしてこどもと関わる時間を作った。



のこぎりやマツチにおそろおそろ触る子、竹細工や秘密基地作り、ドラム缶で作ったパン作りなど、自由に遊んだ。こどもたちは目を輝かせ、一日夢中で遊んだ。「またやろうー」と多くのこどもから言われた。今までにない手応えを感じた。

まちの中であそぶ

今年、あそ部を始めて6年目。「外で遊んでいるとうるさいと怒られた」そんな声を何度か聞いた。場所を問わず遊べるところがまちの中にもっとないか。おとな達と街なかで遊ぶ試みでしたが、まちで遊ぶには地域の理解・協力が欠かせないと感じた。そんな時、「NPO法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン」の活動を偶然知った。忍者修行や劇・話作り等で遊びながら異世代が関わることで互いの違いを認め合い、寄り添い、響関する力(相手の様々な感情に向き合い、共感する力)を地域の中に育てようと活動していた。

そして、つい先日8月22日・23日に宇和島市社会福祉協議



あそびの職人講座



あそ部(忍者)

会の事業としてアフタフ・バーバンから講師を2人招き、宇和島城を舞台に「忍者まちをはしる」を実施した。参加者は小学校1年〜89歳まで2日間の講座で延べ94名。中には高校生や専門学校生もいた。初日はまずおとなスタッフが、変身修行、人と関わるワークショップをし、心をほぐして遊んだ。翌日は、小学生忍者と一緒に城を駆けめぐり、変身の術、合言葉を使いながら影忍者から逃れ、巻物を探せとの指令。巻物に隠された言葉から暗号解読し、見事謎を解いた！

「おとながこんなに遊ぶと思わなかった、すごい。こんなに笑ったの久しぶり」という高校生や、自分にもらった館を大学生にも分けてあげる小学生、年輩参加者に歩調を合わせて歩く若者、10代に戻ったような笑顔で微笑むおとな。

まちで遊ぶことは、決められた場所で遊ぶよりも地域の理解が必要だ。しかし今回の忍者では、行政やNPO、ボランティア等がそれぞれの形で応援し、時間を作って参加し、こどもと関わり合うようになってきた。さらには、一般の人も私たちが温かく見守り、時には思いがけず参加もしてくれられた。

街なかでの忍者修行。参加者が

外の人もその場にいることで疑似忍者体験をし、みんなで関わり創り上げた遊びだったと思う。まちで遊びたいという私の想いを受け止め、地域の人が力を貸してくれて初めて出来た事業だった。

あそ部のこれから

あそ部はきつとこれらかも姿形を変えていくことだろう。まだ出会っていない人がたくさんいる。これからも、地域の人の力を借りながら「まち」を舞台に、こどもからお年寄りまで遊んでつながられる活動をしていきたい。そして、こどもたちがいつかおとなになったとき、ふっと思い出して笑顔になったり、次の世代のこどもにも一緒に寄り添い遊べるおとなになってくれたら…。また、おとなもそこで感じたことを地域に持ち帰り、人に寄り添い、サポートすること、宇和島のあちこちが元気になるのではないかなと思う。

ほんのひとつきでも、おとなとこどもが一生懸命遊ぶ、「あそ部」。あえて手間暇かけて効率性を求めず無駄な遊びをいっぱい出来る時間・空間を仲間とともに作って



もっと交流☆ずっと一緒フレンズ